

口頭発表

[II-29-13_15] 栄養・飼養（II-午前）

座長:浅野 早苗(日大生資科)

2019年3月29日(金) 11:00 ~ 11:30 第II会場 (8号館8302講義室)

11:20 ~ 11:30

[II29-15] 液化仕込み清酒粕給与が肥育後期末経産雌牛のルーメン液性状、成長成績、枝肉形質および肉質に及ぼす影響

○山内 望萌¹, 小栗 道政², 堤 浩子³, 勝俣 沙智¹, 大石 風人¹, 広岡 博之¹, 熊谷 元¹ (1.京大院農, 2.(株)オグリ牧場, 3.月桂冠総研)

【目的】液化仕込みの清酒は、従来の製法と異なり米を高温で糖化させた後に発酵させて製造するため、その粕(液化粕)には酵母由来のタンパク質が多く残存しており飼料利用が期待される。本研究では、肥育後期末経産雌牛への液化粕給与がルーメン液性状、成長成績、枝肉形質、肉の理化学特性および筋肉内脂肪酸組成に及ぼす影響を検討した。【方法】肥育後期の黒毛和種未経産雌牛23頭(開始時月齢: 25.8±0.6)を用い、濃厚飼料の乾物で5%量を生液化粕(T区)および大豆粕(C区)で代替する2区を設けた。1週間の馴致後、4か月以上試験飼料を給与し、出荷した(終了時月齢: 31.2±0.8)。試験個体の半数の11頭より、試験開始4か月後の午前給餌前と給餌4時間後にルーメン液を、また同日午前給餌前に頸静脈より血液を採取した。屠畜後にはルーメン液・血液を採取した個体のうち枝肉等級に近いものからランダムに枝肉サンプルを採取し、肉の理化学分析および筋肉内脂肪酸組成の分析を行った。【結果】第一胃液中プロトゾア数および給餌前の第一胃液中*iso*-酪酸濃度はT区が低く($P < 0.05$)、血漿中総コレステロール濃度およびリン脂質濃度はT区が高かった($P < 0.05$)。成長成績、枝肉形質、肉の理化学分析値および筋肉内脂肪酸組成に差は認められなかった。以上より液化粕の給与は、肥育後期末経産雌牛の生産性を低下させないことが示唆された。